

「求めよ、そうすれば与えられる。天の父は聖霊を与えて下さる」

求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。
門をたたけ。そうすれば、与えられる。…天の父は求める者に聖霊を与えて下さる。

Ask and it will be given to you; seek and you will find; knock and the door will be
opened to you. …

how much more will your Father in heaven give the Holy Spirit to those who ask him!”

求めよ、さらば与えられん、このイエスの言葉は広く知られているが、この言葉が真実だ、と本当に思っている人は少ないであろう。人間は小さな子供のときから老年となり死が近づくに至るときまで、何かを常に求め続けている。しかし、多くの場合、それらが与えられないゆえに、さまざまの悩みを苦しみ、悲しみが生じていく。それゆえ、求めても与えられない、という気持ちがたいていの人にあると考えられる。

しかし、求めたら何が与えられるのか、主イエスが言われたのは、人間の欲望のとおりなんでも与えられるなどということではない。上記の「門をたたけ、そうすれば与えられる」という言葉のあと、普通の罪深い父でも、子供が魚を求めているのに蛇を与えたりしない。よいものを与えようとする。まして天の父(神)は愛ゆえに求める者に聖霊を与えてくださると、言われている。この箇所と関連して次の言葉がある。

「ただ、神の国を求めよ、…小さな群よ、恐れるな、あなた方の父は喜んで神の国を下さる。」(ルカ 12:31-32)ここでは、神の国を求めよ、と言われている。神の国とは聖なる霊に満ちたものであり、ほぼ同じような意味をもっている。困難なときに、目に見えるものそれ自体は求めても与えられないことが多い。例えば、事故や病気で失明した人がいくら求めても、目は元通りにはならない。しかし、聖なる霊を求め、神の国を求めるときには、それが与えられ、その失明という困難を乗り越えていく力を与えられる。

聖なる霊が豊かに与えられるほど、苦難に耐える力もいっそう与えられるだろう。しかも、聖霊の実は、愛、喜び、平和…と言われているように、人間が本来最も欲している目に見えない賜物をも与えられる。

求めても与えられないように見えるときも、あきらめることなく、私たちも神の国を求め、聖なる霊を求め続けていきたいと思う。



野草と樹木たち
キヌガサソウ（衣笠草）
ユリ科 月山 2010.7.30

このキヌガサソウは、山形県の月山（標高 1984m）の頂上に近いところに咲いていたものです。（右の赤い花は、ベニバナイチゴです。）登山道から少し離れた付近の植物を調べていて、草木の陰で咲いていたのを見つけたのです。おそらくほとんど

の人に気付かれずに咲いてきたと思われます。高さは、50 cm内外、葉は大きく放射状に茎から 10 枚前後がひろがり、その中央に白い花が咲いています。その花びらの数も 10 枚前後です。

この花は、日本特産で、世界に誇れる貴重な植物だとされますが、ほかに類のないような花です。よく特異な動物に関しては、そのような形態が生き残るのに都合がよかったのだ、などと説明されることがありますが、植物に関しては多くの場合、そのような説明はあてはまらないのです。この花にしても、この衣笠のような形が生き残るのに都合がよかったなどということはなく、この花の形はまさに神がその御計画のもとで創造されたとしか言いようがないのです。人間が存在するはるか昔から、咲き続けていただろうと思われますが、こうした高山の野草の花々は、神の美術館に収められた神の作品ともいうべきもので、私たちも人間の力をはるかに超えた神の力の繊細、美しさ、無限の多様性に驚かされるのです。（写真、文：

T.YOSHIMURA)
